



2017年8月30日

農林水産大臣 斎藤 健 殿
国土交通大臣 石井 啓一 殿
環境大臣 中川 雅治 殿

一般社団法人日本応用動物昆虫学会
会長 矢野 栄二

省庁間連携による侵入害虫クビアカツヤカミキリの防除対策に関する要望書

平素は本学会の活動に対してご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、既にマスコミ等で報道されておりますが、中国およびその周辺国原産の侵入害虫クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* が2012年に愛知県のサクラとウメで確認され、その後も分布を拡大し、2017年8月18日現在、8都府県で発生が確認されています。本種は、幼虫がモモ、ウメ、サクラ等のバラ科樹木の内部に食入、加害することで樹勢を低下させ、加害が激しくなると枯死させます。本種はすでに我が国の一部の地域では定着し、さらに分布を急速に拡大すると危惧されています。

クビアカツヤカミキリの特徴は、増殖能力が高く、移動分散能力が高いことです。したがって、今後は、国家的な早急な防除の実施ならびに研究開発の推進が求められます。そこで、一般社団法人日本応用動物昆虫学会は、農林害虫の防除全般を主管する農林水産省、都市緑化行政を主管する国土交通省、外来生物対策を主管する環境省に対しまして、下記のとおり緊急かつ継続的な対策を、関係する各省庁、自治体等と連携して取り組まれることを強く要望します。

1. 省庁間連携によるクビアカツヤカミキリに対する緊急且つ継続的な防除ならびに国内での分布拡大防止策の実施
2. クビアカツヤカミキリに対する防除技術開発の推進

緊急対策の必要性について

クビアカツヤカミキリは、モモ、ウメ、サクラ等のバラ科樹木内部に食入した幼虫が大量のフラス（木くずと虫糞が混ざったおがくずのようなもの）を排出して加害し、樹を枯死させるという深刻な被害を与えます。本種は、国内では、2012年7月に愛知県のサクラとウメで、2013年7月には埼玉県のサクラでそれぞれ発生が確認され、2017年8月18日現在、徳島県、大阪府、和歌山県、愛知県、東京都、埼玉県、栃木県及び群馬県で発生が確認されています。徳島県では、サクラのほかに農作物のモモでも発生が確認され、最も被害の激しい園では園内の3分の2の樹が枯死に至り、廃園間近の状態です。また、埼玉県および群馬県のサクラでは本種の加害による枯死木も発生し、地域の花見スポットの桜が多数伐採される事態が生じております。モモやウメは、我が国にとっては主要な果樹であり、地域農業へ与える影響は深刻です。またサクラは、我が国では全国各地で植栽され春の花見で国民に楽しまれるシンボリックな樹木です。さらにサクラには、各地域の観光資源としての名木もあることから、本種の加害による観光産業への経済的影響も今後危惧されます。



要望事項

1. 省庁間連携によるクビアカツヤカミキリに対する緊急且つ継続的な防除ならびに分布拡大防止策の実施

(1) 発生地および発生地周辺における緊急防除の徹底

侵入害虫の定着を防止するには、発生初期での防除の徹底が重要となります。既に本種には有効な防除技術がいくつか開発されています。また、本種による被害は、農林水産省、国土交通省、および環境省と複数の省庁が関係することから、省庁間連携による広域的な防除をおこなう必要があります。

(2) 発生地および発生地周辺におけるモニタリング調査の継続的な実施

クビアカツヤカミキリは成虫になるまで2～3年を要すると言われていています。したがって、(1)で防除を実施あるいは発生地周辺の地域では、複数年に渡って継続的にモニタリング調査をおこなう必要があります。

2. クビアカツヤカミキリに対する防除技術開発の推進

本種の防除技術としては、伐採駆除、成虫捕殺、薬剤防除が現在おこなわれています。被害樹の伐採駆除は最も効果が高いのですが、果樹では実施が困難なことも多く、サクラでは市民との合意形成が難しい面があります。また薬剤防除では、各作物において使用できる薬剤の種類が少なく、被害が進むと防除は困難になります。また薬剤防除とともに成虫捕殺では、多大の労力を要するため、今後、さらなる技術開発が必要となります。そこで以下の防除技術について開発を進めることを要望します。また技術開発のための予算措置を強く要望します。

- ① 性フェロモンを利用した防除技術の開発
- ② 有効な薬剤の探索および農薬登録の促進、ならびに利用技術の開発
- ③ 生物的防除法の開発
- ④ 上記の防除技術を組み合わせたIPMの確立
- ⑤ 行政機関、研究機関の相互連携、情報共有、役割分担

学会の対応

クビアカツヤカミキリの防除対策については、複数の省庁に所管がまたがっており、省庁間の相互連携、情報共有が必要と考えられます。また、本種の防除および分布拡大を防止するためには、研究機関、行政機関等を含めた専門家会合が必要と考えられます。そのような場には、一般社団法人日本応用動物昆虫学会といたしましては、積極的に専門家を提供してご協力いたします。さらに、本種の防除ならびに分布拡大防止策を構築するための技術開発の予算獲得のため、積極的に協力し、研究が実施される場合にも人材を提供したいと考えます。

参考文献

愛知県(2013)平成25年度病虫害発生予察特殊報第2号.

<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/2013/tokusyuhou/tokusyuhou2402.pdf>

加納正行・野中俊文・桐山哲・岩田隆太郎(2014)埼玉県草加市の‘染井吉野’におけるカミキリムシ外来種クビアカツヤカミキリ *Aromia bungii* の発生と被害. 森林防疫 63: 101-105

環境省自然環境局(2017)日本の外来種対策 特定外来生物等の新規指定の検討について.

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/kentou.html>

桐山哲・岩田隆太郎・加賀谷悦子(2015)群馬県館林市・津教徒福生市で発生が確認されたサクラ・ウメ等を加害する外来種クビアカツヤカミキリ. 植物防疫 69: 807-809

大阪府環境農林水産部農政室長(2016)病虫害発生予察特殊報第1号.



<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H28nd/tokushu/aromiabungii.html>
栃木県農業環境指導センター(2017)平成 29 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号 クビアカツヤカミキリの発生について。

<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/file/yosatu/H29/tokusyuhou/H29tokusyuhou2.pdf>
徳島県(2017)平成 2 9 年度技術情報第 1 号 クビアカツヤカミキリの発生状況及び防除対策について。 http://www.pref.tokushima.jp/_files/01057393/170501_gijyutsu_1.pdf

本件に関する問い合わせ先

日本応用動物昆虫学会理事 徳丸 晋
(京都府農林水産技術センター農林センター環境部 主任研究員)
E-mail: s-tokumaru64@pref.kyoto.lg.jp
Tel.: 0771-23-9512



写真1 クビアカツヤカミキリ成虫
「浦野忠久氏(森林総合研究所)提供」



写真2 幼虫の穿孔穴からのフラス
「徳丸晋氏(京都府病害虫防除所)提供」



写真3 モモ園の被害
「中野昭雄氏(徳島県立農林水産総合技術支援センター)提供」